

—概要—

感染症センターは泉佐野市立感染症センターとして、輸入感染症の国内侵入を阻止するため1994年に関西国際空港対岸のりんくうタウンに建設された。りんくう総合医療センターとして総合的に運用されていたが、1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」施行以来、市立泉佐野病院の管轄下に移行した。

現在、全国4か所、西日本唯一の特定感染症指定医療機関としての役割を果たすべく、関西空港検疫所等関連機関との会議や訓練、見学、実習の受け入れ等を実施している。

これまでの経験としては、2003年 鳥からヒトへ感染が認められたH5N1亜型ウイルスによる高病原性鳥インフルエンザが、パンデミックインフルエンザ(新型インフルエンザ)に変異することを危惧し、体制の強化を図っていたところ、2009年4月、豚由来による新型インフルエンザ(2009PandemicH1N1)が発生した。感染拡大防止のため、当センターが中心となり、国内、地域への大きな役割を担った。

2014年 西アフリカでエボラ出血熱がアウトブレイクし、11月7日には我が国3例目(東京での2例目と同日)となるエボラ出血熱疑似症患者(ギニア国籍の20代女性)を関西空港検疫所から感染症センター高度安全病床に受け入れた。国立感染症研究所に血液検体を搬送し、エボラ出血熱は否定された。当院にて熱帯熱マラリアであると最終診断し、加療後、経過良好にて11月9日夜に退院となった。

2015年 韓国でMERS(中東呼吸器症候群)が主として病院内アウトブレイクし、日本への上陸に備えて、受け入れ対応訓練を行った。韓国からの搬入はなかったが、9月13日、中東からの帰国者のMERS疑い症例を関西空港検疫所から感染症センター高度安全病床に受け入れた。結果、MERSは否定された。

2015年度は、前年度のエボラ出血熱疑似症患者の受け入れを機に、感染症センター兼任の特殊任務看護師を11名任命した。感染症センターの円滑な運営及び適正な管理と患者さんの入院生活を支え、安全に感染症看護を行なうための情報共有と不安や疑問を解消して勤務することを目的に、月に1回ミーティングを始めた。また、国立国際医療研究センターより講師を迎え、一類感染症対策ワークショップの開催や岸和田保健所との患者受け入れ訓練、初動訓練を行った。

2015年、日本感染症学会の蚊媒介感染症専門医療機関 さらにはジカウイルス感染症専門医療機関にも登録された。

—実績—

疑い例対応

9月13日(日)MERS疑い患者受け入れ

11月24日(火)MERS疑似症対応

2月2日(火)MERS疑い

関空検疫所とのMERS疑い患者の対応確認

関空検疫所にて 倭正也 山内真澄

MERS治療について倫理委員会

6月29日(月)MERS治療について院内倫理委員会

事前打ち合わせ

10月1日(木)MERS治療について院内倫理委員会

事前審査

11月27日(金)MERS治療について院内倫理委員会

感染症センター見学者

1)8月10日(金)韓国サムスンソウル病院 医師、建築家 5名、

国立国際医療研究センター 大曲貴夫先生、堀成美先生:見学

2)9月11日(火)徳島大学病院 感染制御部副部長 東桃代先生:見学

3)9月18日(金)関西大学公衆衛生学実習14名:講義、見学、防護服着脱

4)10月9日(金)奈良県立医科大学 公衆衛生学実習11名:講義、見学、防護服着脱

5)12月9日(水)一類感染症対策ワークショップ講師ならびに参加者:国立国際医療研究センター、国立感染症研究所、成田赤十字病院、豊島病院、荏原病院、大阪市立医療センターなどの医師、看護師多数見学

6)12月22日(火)韓国京畿道 医師、行政関係者他 7名:視察

7)1月14日(木)泉佐野保健センター 家宮久雄所長:見学

8)3月7日(月)厚生労働省1類感染症研究班受け入れ調査 加藤康幸先生、富尾 淳先生:見学

9)3月15日(火)財務省 2名 厚生労働省 2名 :視察

10)3月17日(木)成田赤十字病院 感染症科部長 馳亮太先生、救急集中治療科部長 救命救急センター長 中西加寿也先生、感染症病棟師長 菱木看護師、集中治療病棟師長 池田看護師

取材対応

6/4(木)読売テレビ取材(MERS)

6/15(月)関西テレビ電話取材(MERS)

6/23(火)読売新聞取材 (MERS) など

院内定期訓練

4月27日(月)クリティカルケア訓練 エボラ出血熱対応

5月29日(金)MERS対応訓練

6月29日(月)クリティカルケア訓練 MERS対応

8月4日(火)クリティカルケア訓練

特殊任務看護師ミーティング

7月10日、9月11日、10月9日、11月13日、12月9日、

1月8日、2月5日(訓練参加含む)

合同訓練

12月9日(水)一類感染症対策ワークショップ

りんくう総合医療センター

2月5日(金)患者搬送、受け入れ訓練

(岸和田保健所、貝塚、岸和田消防本部訓練)

2月23日(火)MERS対応搬送訓練

(関西空港検疫所、大阪府、泉佐野保健所)

院外研修参加

7月20日(月)～阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ～ 第4回 神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議2015-阪神・淡路大震災20年記念大会 One World, One Life- 倭正也、深川敬子

8月13日(木)大阪府 病原体等の包装・運搬講習会 大西鉄也

8月16日(日)～29日(土)大阪大学微生物病研究所 タイ・ミャンマー国境における現地で学ぶ熱帯感染症医師研修 関雅之

11月3日(火)グローバル化時代の感染症 公開講座参加 ICD制度協議会主催 倭正也

11月7日(土)熱帯病治療薬研究班班員ならびに薬剤使用機関の責任者合同会議 登録症例のまとめ、来年度の薬剤供給体制についてなど 倭正也

12月3日(木)成田日赤一類感染症対策ワークショップ
ファシリテーター:倭正也、山内真澄、深川敬子

1月15日(金)平成27年度第2回 阪神地区感染症懇話会講演会 感染症媒介蚊への対策 ～調査方法を中心に～ 倭正也

2月20日(土)JICA国際緊急援助隊感染症対策チーム 導入研修参加 倭正也

2月24日(水)G7神戸保健大臣会合開催200日前フォーラム 「感染症との闘い～神戸・ひょうごからグローバル・ヘルス・ガバナンスを考える～」WHO神戸センター共催 エボラ出血熱に対するWHOの対応など 倭正也、深川敬子

3月28日(月)「急性呼吸器感染症の初動と院内感染対策強化のための講習会」共催:国立国際医療研究センター 国際感染症センター 倭正也

国立国際医療研究センターとのMERS対応打ち合わせ

大阪府、関西空港検疫所、大阪検疫所関連会議

6月5日(金)大阪府、関空検疫所 MERS対策打ち合わせ 倭正也、山内真澄、深川敬子

6月12日(金)2015年度第1回 阪神地区感染症懇話会 エボラ出血熱の現状と医療現場から見えてきた課題 倭正也

6月12日(金)大阪府、関西空港検疫所との MERS対策打ち合わせ 倭正也

6月16日(火)大阪府MERS対応にかかる連絡会 倭正也 山内真澄

(1)MERS(中東呼吸器症候群)に対する行政対応について

(2)韓国におけるMERS対応について

(3)質疑応答・意見交換 感染症指定医療機関の具体的調整方法について 公表について 休日対応について

6月19日(金)関西空港健康危機管理連絡会議 倭正也

(1)平成26年度検疫措置区実施報告について

(2)エボラ出血熱

(3)中東呼吸器症候群(MERS)について

6月22日(水)大阪検疫所連絡会議 大阪港・阪南港健康危機管理連絡会議 倭正也

(1)韓国で発生している中東呼吸器症候群(MERS)の発生状況及び検疫所の対応

(2)MERS疑似症患者発生時における協力依頼事項について

9月25日(金)大阪府感染症懇話会 大阪府感染症予防計画改訂審議 倭正也

12月3日(火)9時～12時 関西空港検疫所検疫措置訓練

新型インフルエンザ対応 第2ターミナル91番スポット

ピーチ航空機内 倭正也、南麻衣

12月10日(木)大阪港検疫感染症総合措置訓練 大阪港湾合同庁舎大阪海上保安監部会議室

大阪検疫所新型インフルエンザ訓練 倭正也

厚生労働省会議

厚生科学審議会(新型インフルエンザ対策に関する小委員会) 医療・医薬品作業

4月27日(月)厚労省健康局結核感染症課新型インフルエンザ対策打ち合わせ 倭正也

5月20日(水)第1回医療・医薬品作業班

(1)新型インフルエンザ対策における抗インフルエンザウイルス薬の備蓄について 倭正也

6月2日(火) 厚労省健康局結核感染症課新型インフルエンザ対策打ち合わせ 倭正也

6月9日(火) 第2回医療・医薬品作業班

(1)新型インフルエンザ対策における抗インフルエンザウイルス薬の備蓄について 倭正也

7月28日(火) 厚生労働省事前打ち合わせ 倭正也

7月29日(水) 第3回医療・医薬品作業班

(1)新型インフルエンザ対策における抗インフルエンザウイルス薬の備蓄について 倭正也

—今年度の成果と反省点—

早期にMERS対応訓練を開催できたことやエボラの救急搬送訓練、さらには一類感染症対策ワークショップや日本環境感染学会のシンポジウム発表などを行うことができた。それらを通じて、感染症センターに関わる院内全ての職種の方や大阪府、関西空港検疫所、各保健所、府内の感染症指定医療機関、他府県の感染症指定医療機関との連携がさらに深まり、患者受入れの緊急対応の体制が整った。

反省点は、患者が重症化した場合に備えた人員配置体制、特に人数面において今後さらに整えていく必要がある。

—来年度への抱負—

特定感染症指定医療機関として重症患者の集中治療を行うため、専用の医療機器設置を整備するとともに、スタッフの人員配置体制を整え、教育を充実させる。これらを行うことにより、エボラ出血熱、MERSならびに新型インフルエンザなどに対する緊急受け入れ、集中治療体制の強化を行う。